

1. 教育改善推進体制

1. 1 教科ごとにグループを組む。

- [1] 英語グループ：○尾崎、鴻上、塚野、野村、野口(正)、タベシ各教員
 - [2] 国語・国文グループ：○野口(裕)、森長、野田各教員
 - [3] 社会系グループ：○谷本、板野、井上各教員
 - [4] 独語グループ：○木本教員
 - [5] 保健・体育グループ：○安藤、今城、多田各教員
- * ○：グループ長

1. 2 科主任、各グループ長からなる体制を組む。

2. 1 英語グループ

- [1] 適宜会合を持つ。
必要に応じ、適宜会合を開いた。
- [2] 全校英語学力試験を年2回実施する。
計画通り、年2回全校英語学力試験を実施した。
- [3] 長期休業中の学力養成講座を実施する。
夏季休暇中及び春期休暇中の2回実施した。
- [4] 四国地区6高専共通テストの実施に協力する。
平成17年1月11日に実施した。
- [5] 外国人教師を迎えての少人数授業を効果的に実施する。
3学年の技術英語、5学年の実用英語及び専攻科1・2年の英語の授業で、クラスを2分し、外国人教師による少人数授業を実施した。
- [6] 前年度導入した教育支援システムを効果的に利用する。
3学年の技術英語、5学年の実用英語、専攻科1・2年の英語の授業及び学力養成講座等で、教育支援システムを利用した。
- [7] FDの向上（授業参観、研修会参加等）
留学支援（派遣及び受け入れ）、コミュニケーション能力向上、英語教育に関する研修会等に参加した。

2. 2 国語・国文グループ

グループによるFD等の実践

- [1] 定期試験ごとに会合を持つ。
予定通り会合を持ち、よく検討した
- [2] 教授内容の基本的な統一を検討する。
検討し、ほぼ統一した
- [3] シラバスの内容を検討し、改善をはかる。
本年度のものを検討し、次年度に向けて改善した
- [4] それぞれの教育改善のための工夫を持ち寄り、互いの教授能力の向上に努める。
各人の特性を生かし、できる限り情報を交換し、向上に努めた

2. 3 社会系グループ

1 新任教員の研修に重点を置く。

新任教員の研修に重点を置いて2の項目を実施した。

2 新任教員の研修を通じて全体的に教育改善の推進をはかる。

[1] 社会系グループにおける教育改善推進の方針について協議する(4月)。
年度当初に実施し、教育改善推進計画について確認した。

[2] 歴史担当教員の授業を参観し意見交換を行う(4月～5月)。新任教員は、報告書を提出する。

下記の授業について実施した。

科目名：歴史2

対象学年：3D

担当者：板野教員

日時：平成16年5月12日(火) 1時限

場所：3Dホームルーム

授業形態：講義

[3] 倫理担当教員の授業を参観し意見交換を行う(4月～5月)。新任教員は、報告書を提出する。

下記の授業について実施した。

科目名：人間と倫理

対象学年：2年全専攻

担当者：谷本教員

日時：平成16年5月25日(火) 5・6 時限

場所：専攻科第2講義室

授業形態：講義

[4] 新任教員による公開授業を行い、社会系教員中心に、当該授業について、社会系グループにおける教育改善全般について意見交換を行う(6月)。新任教員は、「公開授業実施報告書」を提出する。

下記の授業について実施した。

科目名：政治・経済

対象学年：4C

担当者：井上教員

日時：平成16年6月25日(金) 1-2時限

場所：4Cホームルーム

授業形態：講義

[5] 上記以外にも、後期に社会系グループ内で新任教員の授業を中心に授業参観を実施し、授業方法の検討等について教育改善推進のための意見交換を行う。

社会系グループ内で下記の授業参観を実施し、意見交換を行った。

科目名：歴史2
対象学年：3 E
担当者：板野教員
日時：平成17年1月18日（火）5時限目
授業形態：講義

科目名：倫理
対象学年：1-1
担当者：谷本教員
日時：平成17年2月2日（水）1時限目
授業形態：講義

[6] 年間の総括を行う（2月）。

予定通り実施した。これらの実践を通じて、新任教員を含めて社会系グループ教員の教育改善推進への意識を高めることができた。

2. 4 独語グループ

1 視覚・聴覚を使った立体的な授業作り

[1] 映画の教材化

“Lola rennt” “Emil und die Detektive”を教材化し、授業で使用した。

[2] ドイツ音楽の教材化

ドイツ国歌、ドイツ歌曲、現代のポップスなどを教材化し、授業で使用した。

2 時事問題の紹介

[1] ドイツにおける環境問題への取り組み、経済状況、福祉政策の転換、職人制度の現況など最先端の時事問題を紹介

新聞・雑誌記事・ドイツ政府の広報誌などを使用して、上記の事柄の紹介を行った。

3 独語検定試験への取り組み

[1] 「中級独語」（5年選択）の受講者を中心として上記試験の受験を薦め、3・4級合格者を出すこと。（例年2/3名程度）

授業の受講者から検定試験の受験者はなかった。

[2] 受験希望者には補助教材を使用した学習支援を行う。

受験者がいなかったため、学習支援は行わなかった。

2. 5 保健・体育グループ

規律ある生活習慣の形成と健康安全の意識向上

[1] 始業時刻の遵守指導

何度も指導したが、なにぶん授業間の時間が5分と言うこともありなかなか徹底できなかった。特に女子学生の遅刻が目立った。

[2] 集合隊形形成指導

毎時間授業開始時に集合体型に整列することに習慣づけることができた。

[3] 服装指導

下級生男子は良く指導が浸透したが、女子の一部と中学年で服装忘れが目立った。

[4] 他者との協力及び協調性の指導

小グループでの活動を基本に授業を展開することが多く十分指導できた。

- [5] **健康に生活する上でのポイント指導**
保健授業の中での講義内容及び体育実技の中で身体状況の計測及び現状把握させる旨の教材採用によって実施できた。
- [6] **安全に対する視点の指導**
事故の実際例の説明と、「他人の安全を守る意識」の指導を心がけた。その結果、特に大きな事故は起きなかった。
- [7] **教材に取り上げた身体運動の効果的技術指導**
中学以前にも経験のある教材では、これまで忘れがちになっている基本的技術を中心に指導し実践できた。また初めて経験すると思われる教材を取り上げ、習得過程を実感させる技術指導を実践し好評を得た。
- [8] **身体運動の意義と楽しさの指導**
身体運動の「意義」については、説明をつけることによって納得させることができたと思う。「楽しさ」については、特に運動嫌いの学生と気力低迷学生（不定愁訴気味の学生）に対して不十分を感じる。さらなる工夫の必要を感じた。

○ **総括的な評価と課題**

各教科とも計画をほとんど実行できた。教科内だけでなく科内でも、できる限り情報交換を多くして、教育改善を推進していきたい。小グループに分かれているので、独自性を出しながら独善的にならないように気を付ける。教科だけでなく一般教養科としても、協力しながら推進していきたい。